

自己実現 2025

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

〔高校最後の定期考査が終わりました〕

高校生活最後の定期(期末)考査が終わりました。焦らずに、できること、分かることをひとつでも増やすことが大切な時期です。しっかりと復習し、一つ一つ丁寧に自分のものとしていきましょう。

〔第5回実力考査答案返却及び個人成績票の返却(12/9(月)予定)について〕

第5回実力考査の各教科の採点答案が返却されました。各回の実力考査にはそれぞれ意味があり、その時期ごとのみなさんの学力の到達度を測るとともに、みなさんの学力を引き上げるためのものでした。今回の実力考査は、国公立大学前期日程の約3か月前に実施したものであり、その結果です。何度も繰り返しますが勝負はこれからです。これ以降の3か月間にひとりひとりの状況は大きく変化し、同じ順位(成績)の人でも合否が分かれることが多々あります。また、逆転現象もあります。この結果は目安であって絶対的なものではなく、本当の意味での「実力」はまだ進化の途中であるということを肝に命じてください。

〔A%・B%成績について〕

3年生の実力考査は総合成績を「A%成績」・「B%成績」という数値で表示しています。第4回実力考査は、業者模試(ベネッセ・駿台記述模試)を利用して実施しましたが、第5回実力考査では、「A%成績」を算出するための各教科・科目の数値は、校内実力考査(第5回)とマーク模試(全統マーク模試)の平均値を用いています。一方、「B%成績」を算出するための各教科・科目の得点は、校内実力考査(第5回)のみを用いています。「A%成績」は5教科(文系:国・英・数・地歴公民・理科、理系:国・英・数・地歴 or 公民・理科2科目)、「B%成績」が3教科(文系:国・英・数、理系:英・数・理科2科目)という点は他の回と共通です。

合否追跡調査に用いる総合成績は、第3～5回の各科目の平均値を算出し、その数値を「A%成績」・「B%成績」の算出式に代入しています。

〔第5回実力考査教科・科目別講評〕

〈国 語〉

〈現代文分野〉

【一】 建築家・隈 研吾の『自然な建築』の序章に当たる文章から出題した。「建築」を「表象」として捉えるか、「存在」として捉えるべきか、この視点から論を展開し、「自然な建築」について筆者の考えが述べられたのが問題文である。設問もそれを中心に構成した。本文がさほど長くはないことや、内容の抽象度が低いこともあって、現代文が不得手な人にも読みやすかったはずである。その上、完全な記述問題は一題に絞り、着眼した一文を制限字数内でわかりやすく説明すれば得点できるように配慮したため、高得点を期待したのだが。残念ながら出来はよくなかった。「キケツ(帰結)」という漢字が書けない、「不毛」の意味が正しく選べない、五字程度で本文からの抜き出しができない、簡単な選択肢から正解を選び取れない、など最後の校内実力考査としては悔いが残る結果であった。ただ、記述設問の解答に果敢に挑む人が前回よりも大幅に増えたことは評価できる。

【二】 三島由紀夫の『青の時代』を本文として出題した。幼い末弟の「誠」とその父「毅」の内面と行動との関連を読み取ることが中心であった。難解な内容ではなかったのも、設問をしか

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

〈ご意見・ご質問をお寄せください〉

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

り把握し、条件に応じて思考して記述内容をまとめることはさほど困難ではなく、無難に得点に結びつくであろうと期待して出題した。しかしながら、「迂回」「須臾にして」の意味を誤って選択している者も多く、語彙力不足の感は今回も同様であった。記述説明においては、主語が示されていないなかったり、行為の対象が不明瞭であったり、具体性がなく意味不明な表現になってしまっていたりするものが目立った。少ない字数の場合ほど答える記述文章を練る必要がある。

〈古典分野〉

【三】古文は、『讃岐典日記』から二種類を本文として出題した。前回同様、内容の読み取りが粗雑すぎる。基本文法と語彙力のさらなる充実が必要であるのは言うまでも無いが、二つの文章がどのように関連しているのか、また、一方の文章ともう一方の文章との違いはどういうことか、などの読み取りがまだまだ未熟である。特に[文章Ⅱ]では、筆者ではない別人の二人の体験に基づくことが筆者によって取り上げられているのであったが、(注)を読んでいなかったのか、筆者の体験として混同して読んでいた者があまりにも多かった。(注)で与えられている情報も本文である。

【四】『韓非子』から出題した漢文では、本文に選択肢を合わせると、語法・句法は二十種類以上も含まれていたのも、基礎力の違いがそのまま得点に表れていた。二次試験で漢文を解く必要のない人が記述を軽視していたおかげで漢文の成績が上がったように思う文系の人、そして個人成績表を見て国語の偏差値が上がったように思っている人は、実際にはまだまだ力不足であるので、安心せずにさらに基礎力の充実・安定に向けて努力しなければならない。

〈英 語〉

今回が最後の実力考査でした。神戸高校に入学してから、合計9回実力考査を受けたことになります。ほとんどの人が、その量の多さ、難易度に苦戦してきたと思います。しかし、そんな中でも、少しでもいい結果が出るようにと、その時の自分の全力を投入して取り組んでくれました。投げやりにならず最後までやり遂げた77回生の皆さんの努力を心からたたえたいと思います。お疲れさまでした。

さて、いよいよ前期入試まで3か月ところまでやってきました。現役生はここからが一番偏差値が上がる時期になります。つまり、ここからのメンタルと勉強の取り組みが重要ということになります。英語の勉強としては、共通テストの演習に学校で取り組みつつ、やはり2次試験で1点でも多く点が取れるように、どんな英文でも読み切れる地に足の付いた英語読解力を養成する時期です。この実考を含め、多くの模試を解くと思いますが、大切なことは、これまでと同様、丁寧なテストの見直しになります。やりっぱなし、間違えっぱなしにせず、自分の弱点の把握と、穴を埋めることに真摯に向き合ってください。その姿勢が、必ず合格をもたらしてくれます。

今回の実考を採点して、強く印象に残ったことがあります。それは、記述解答部分の「合格答案作成力」のなさです。これは、77回生の多くの生徒に当てはまり、このままで入試を受けたら、知識や読解力はあるのに、点を取れる答えの書き方が分からないために、無駄に点数を落として、多くの人がライバルに負けることになります。では、「合格答案作成力」というのは何なののでしょうか。それは、「1点、2点でも多く取れるような、リスクのできるだけ少ない表現で答案を書く力」です。今回の採点をしながら、多くの人が、日本語として明らかに不自然な、絶対に点数が取れない答えを書いて解答を終えていることが心配になりました。日本語として不自然な文が正解になることはありません。高校の定期テストの採点であれば、皆さんに好意的に部分加点をすることはありますが、入試は、点数の取れない人を振り落とすものなので、温情の加点は存在していません。自分の人生を決めるテストの大事な答えなのに、明らかに点の取れない答えを書いて次の問いに進むことには意味がないのです。早く他の問題を解かなくてはと思い焦って

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

〈ご意見・ご質問をお寄せください〉

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

中途半端な解答を書いて、先に進んだのはいいが、先に進んだ問題も中途半端になり、多くの点を取りこぼすことになりかねません。確かに、自分の知らない知識が解答に必要な時がありますが、リスクの極力少ないごまかし方を身に付ける必要があります。入試は1点、2点の争いです。合否のラインには、1点差といっても山ほど人がいるのです。それほど1点は大きいのです。1点差と聞いたら「惜しかった」となりますが、分布の上では、その1点のラインに山ほど人がいて、順位の上では大違いなのです。その山ほどの人から抜け出したかったら、解答を書く際に1点にこだわる姿勢を自分にしみこませることと、テクニックを磨くことが大切です。このたった1点、されど1点のために、この若くてキラキラした人生の1年間を無駄にすることがないようにしましょう。これからの3か月間の英語学習のテーマは、読解問題も、英作問題も、すべてそれが大切になります。解答欄をとにかく埋めればよいという姿勢は、受験においては、致命傷です。早く卒業して、泥臭くても1点をしたたかにもぎ取ってくるような姿勢を徹底し、答案作成力を身に付けてください。

いつも通信等で言っていますが、改めて、日本語で記述する問題で、合格解答作成力を発揮するための留意点をまとめます。まず、基本的な姿勢として、英文和訳でも、指示内容を答える問題でも、下線部や問われている部分だけで答えを書かず、その部分の前後の論理の流れをまず確認して、下線部や問われている部分の「正しい解釈」をつかんでから、その解釈に沿って、極力該当英文の文法に沿った日本語を書くことです。その際、日本語として不自然であれば、自分が暗記して覚えている単語の語彙やイディオムの語彙を少し崩さなくてはいけないときがあります。その際も、リスクが極力少ない言い換え表現を、正しい解釈の枠の中で探し出してください。正しい解釈ができていない状態で、やみくもに下線部の単語を適当につないでも、点数が取れる可能性は極めて低いです。ですので、まずは、日々の勉強の中でどんな英文でも正しい解釈ができる読解力をつけることが第一優先になります。その読解力をつけるには、文法力が何よりも大切です。そして、下線部や問われている部分に代名詞などの表現が使われている場合は、その代名詞が指すものを突き止めてから考えることや、ディスコースマーカーを上手く利用することなども必要です。自分が読んだ英文で、文法的に解釈できない文があれば、その分の中に自分の知識の穴が隠れていますので、その文と向き合って1つつ穴をふさいでいきましょう。

ここまで、最後の実力考査から見えてきた、皆さんの合格力改善の道筋について述べてきました。できるようになるか、ならないかは、皆さんの合格に対する思いの強さしだいだと思います。将来の自分に胸を張れるような人生1回りの受験勉強にしてほしいと思います。しっかりと2次力を磨いて、一人でも多くの人が自己実現できるように応援しています。

学年平均

学年全体 平均 68.0 / 200 点					
No. 1 平均 (長文) 36.3 / 100 点			No. 2 平均 (文法・和訳・英作) 31.7 / 100 点		
普通科	全体平均	65.7	総理	全体平均	85.4
	No. 1 平均	35.3		No. 1 平均	44.0
	No. 2 平均	30.4		No. 2 平均	41.4

大問別平均点と正答率

大問	1	2	3	4/5/6/7	8/9	10
項目	長文	長文	長文	文法	和訳英作	自由英作
配点	35	30	35	40	40	20
全体平均	16.3	10.8	9.2	14.2	13.2	4.3
正答率(%)	46.5	35.9	26.3	35.4	33.0	21.4
普通科平均	16.0	10.5	8.8	13.7	12.7	4.0
正答率(%)	45.7	35.1	25.0	34.2	31.9	19.9
総理平均	18.8	12.6	12.6	17.9	16.8	6.7
正答率(%)	53.7	42.0	36.1	44.9	42.0	33.4

〈数 学〉

例年通り、大問のみ（理系 6 題／150 分・文系 5 題／120 分）の出題でした。出題単元についても難関大学入試の頻出分野から満遍なく出題し、難易度は第 3 回と同程度を意識して作問しました。第 3 回から比べて、平均点は文系 31.8→37.0 点、理系 39.0→46.1 点、総合理学科 78.0→74.0 点と変化し、普通科の生徒も普段の授業で演習問題を扱うようになり、力を伸ばしてきているのではないかと感じられます。それでも、基本事項があいまいな生徒も散見され、演習問題から共通テスト対策となるこの時期に、もう一度基礎・基本事項の確認をし、本番では取れる問題の取りこぼしのないように力を伸ばしてほしいです。以下、各設問についての講評です。

- ① 空間ベクトルからの出題でした。ベクトルの知識は幾何の問題に対するとき非常に有効です。(1)、(2)の基本問題はよくできていましたが、(3)から得点に差がつかしました。平面の方程式を法線ベクトルと合わせて使うことで、何かと捗りますが、まずは「点 P が平面 ABC 上にあること」でどのように $\overrightarrow{OP}$ が表せるのか、などの基本事項をもう一度確認しましょう。
- ② 対数不等式と領域の融合問題です。対数をみたら真数条件と底の条件を整理することを忘れずに。また、 $\log_x y$ の符号を気にせずに両辺に掛けてしまう答案が目立ちました。不等式は掛けるものの正負によって不等号の向きも変わりますし、より注意が必要です。対数の計算の性質や底の変換公式にもまだ勘違いをしている人も多く、ここでも基本事項の確認が必要です。
- ③ 確率からの出題でした。苦手とする人が多いので出題しました。(1)は具体的に、(2)は(1)の一般化、(3)は(2)をさらに...という、問題構成です。(1)の具体的な場面について、よくよく考察し、問題の意図を正確にとらえられたかがカギでした。数学の問題は修飾なく、全員が理解できるように校正されています。今回の問題で問題を読み違えた人は、この表現はこんな意図を示すなどの読解力を養いましょう。確率・場合の数は正解との乖離が激しい場合が多く、「今回はダメだった」で終わってはいませんか？どの分野でも言えることですが、特に確率・場合の数の分野では「問題を解く→解答解説を見る→理解する」ではなく「問題を解く→答え

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

〈ご意見・ご質問をお寄せください〉

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

の数字だけを見る→誤っていれば解法を修正する→答えの数字だけを見る→…」の繰り返しで、自分の思考を修正していきながら、解法を確かなものにするように取り組んでいきましょう。

- ④ (文系) 数列からの出題でした。「偶奇分け」は近年多くの入試で出題されています。残念ながら完解はおらず、難問のように思われるかもしれませんが、それぞれの内容は基本事項ばかりです。(1)、(2)はまずまずの出来で、(2)で $(-1)^{n-1}$ が現れ、(3)で和を求めた後、(4)で場合分けできたかがポイントです。もし、(3)がなかったとしても、場合分けに気づいてほしいです。また、問題に出会って手が動かないときは具体的に書き並べることによって方針が立つことがあります。③同様、具体的なものから一般化する力は必要です。

- ④ (理系) 複素数平面からの出題で、典型的な問題構成です。計算が煩雑になりやすい分野ですが、基本事項をおさえていけばやることは大体同じです。(1)について、「回転」という言葉を見ると、複素数平面の出番であるように思います。(2)は p が実軸上にあることで、 $p = \bar{p}$ を使います。(3)については、何度も出会ってきた問題ですね。計算力が問われますが、除外点についても忘れずに。(4)は領域の問題です。条件から領域を示す式を求めます。理系の皆さんにとっては共通テストと2次試験どちらにも出題される分野ですから、重点復習分野であると思います。

- ⑤ (文系) 数学Ⅱで扱われる関数は4次関数まででほとんどは3次関数か2次関数で接線が絡む問題が多いです。ですから問題パターンは意外にも限られ、頻出パターンを繰り返し演習することで得意分野にできます。共通テストでも2次試験でも面積を求める際にはいかに計算を工夫

できるか、です。今回は接線が絡んでいたのも、 $\int (x-p)^2 dx = \frac{1}{3}(x-p)^3 + C$ (俗にいう3分の1公式)を使用するとよかったです。また(4)においても積分区間となる交点に文字が残っていたので、置き換えることが有効でした。

- ⑤ (理系) 計算力を問うというよりも、関数の性質について、微分を用いて考察できるかを問うた問題でした。また本問では、 $f'(x)$ だけではなく、 $f''(x)$ についても考えなければいけませんでした。(1)はグラフの共有点について考えると煩雑になり、定数分離で考えたほうが無難でした。(2)については「ある q が存在して」という部分を読み替えることができない人もいたようです。

- ⑥ 数学Ⅲの積分を題材としましたが、途中までは空間ベクトルを駆使する問題です。意外にも(2)では図形と方程式の考え方、つまり座標をそのまま計算していく手法が多かったです。そこから空間ベクトルの演習が不足しているともれます。①と合わせて早期復習を！(3)は最短距離が2通りあったことに気づけたか、(4)は(3)の流れから体積を求めますが、標準的な問題でした。

<物 理>

今回は大問3題を、力学、電磁気、波動から出題した。

- ① の力学では、Ⅰで力のつりあいを問い、Ⅱで斜め方向に単振動する台の水平な面上に小球が自由落下し弾性衝突を繰り返す運動について考察した。基本的な設問が多く含まれており、前半の正答率は高かったが、小球の運動をグラフで表示するところまで辿り着いた者は僅かだった。

- ② の電磁気では、電磁誘導を扱った。レール上を導体棒が運動するという典型的な設定に、外力を加えられた導体棒が等加速度直線運動する点、コンデンサーとの並列接続である点加わり、応用力を必要とした。③ の波動では、ニュートンリングを扱った。中心付近が暗くなるのは反射した光が弱め合うことによるが、中心自体はそもそも反射光が出ないので、反射光強度は0となる。平凸レンズと平板ガラスの間の空間にガラスと同じ屈折率の物質を挿入した場合も、同様に反射光強度は0である。後半では開口部を通過した光が1点に集まることを考察した。その理

<保護者の方々にも読んでいただきましょう> <ご意見・ご質問をお寄せください>

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

由を記述する際には、各開口部からの光の経路差が波長の整数倍となって強め合っていることに触れる必要がある。

正答率が 5 割を超えている設問は①Ⅰ(1)～(3)、Ⅱ(1)(2)、②(1)～(4)、③(1)であった。今までの実力考査と比較して、力学・電磁気の基本問題は大多数が得点できるようになっている。波動分野の③は一部見慣れない設問もあるが、ニュートンリングは基本的な題材であり、前半はもう少し正解してほしいところである。経路差と位相差を混同していたり、ホイヘンスの原理が答えられなかったりする誤答が見られた。教科書に掲載されている内容は頻出でないものも含め、今一度、見直しておこう。

	平均点	得点率 %		
全体	36.7	①力学	②電磁気	③波
普通科	34.2	42.9%	37.3%	28.6%
総合理学科	49.7			

〈化 学〉

今回の実力考査は近隣の国立大学によく見られる形式に合わせて大問〔1〕〔2〕が理論・無機、〔3〕が有機、〔4〕が高分子分野からの出題です。読解力や思考力・応用力を問う最近の傾向に合わせてため、全体の平均は 31 点でした。各設問には発展的な問題も含まれているが、有機や高分子に自信があれば〔3〕〔4〕から解いて、これらの分野でしっかり得点するのが合格点を得る近道であった。このように問題全体を見て、時間配分を考えることは受験では重要な事ですが、答案を見る限り、この領域に達している生徒はまだまだ少ない印象です。小テストで覚えたはずの無機の化学反応式や、有機の反応経路図に出てくる物質名が書けていないなど、単純な知識問題でも復習不足を露呈している答案も見受けられます。2, 3 年の化学授業プリントは 72 枚です。何日で復習を完了するのか、1 日何枚すればよいか、計画を立ててすぐに復習（覚え直し）を始めて下さい。本番までに必要となることをもう一度書きます。基本問題集（セミナー）やマーク式問題集（チェック&演習化学）は全範囲解き終わっていますか？暗記がたいへんな分野もありますがすきま時間を活用してでも覚える努力をしていますか？時間不足になった人はスピードアップのために、普段から時間を測って問題を解くことを習慣にしていますか？

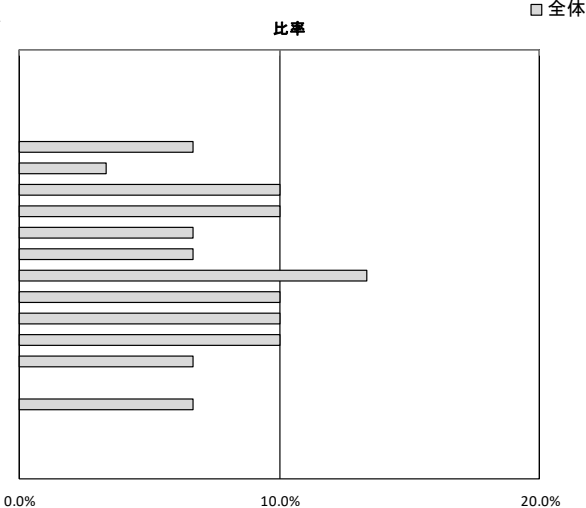
〈生 物〉

得点度数分布表					
全体					
	人数	平均点	最高点	最低点	標準偏差
全体	30	48.3	78	15	16.7

第5回実力考査
実施日：2024年11月06日

全体(100%中)の各総合得点比率

得点	人数	比率
95～	0	0.0%
90～	0	0.0%
85～	0	0.0%
80～	0	0.0%
75～	2	6.7%
70～	1	3.3%
65～	3	10.0%
60～	3	10.0%
55～	2	6.7%
50～	2	6.7%
45～	4	13.3%
40～	3	10.0%
35～	3	10.0%
30～	3	10.0%
25～	2	6.7%
20～	0	0.0%
15～	2	6.7%
10～	0	0.0%
5～	0	0.0%
0～	0	0.0%



知識・技能

(配点46) 得点率 58.0%、

思考・判断・表現

(配点54) 得点率 40.1%

第3回実考の答案と比較すると、かなり実力がついてきたことがうかがえる。平均点も48.3と、こちらの想定より5点以上高めであり、もう少し難易度をあげてもよかったかもしれない。知識・技能だけではなく、思考・判断・表現でも着実に学習の成果が出つつあるが、さらにひと頑張りを期待する。

- I (トランスポゾン) 昨年度の慶応医学部入試から題材を得た。トランスポゾンに関する知識がなくても、リード文を読めば理解できる。DNA型トランスポゾンとレトロトランスポゾンの違いは説明できるようにしておこう。難関大希望者は授業で紹介したトランスポゾンベクターの問題にもぜひチャレンジしてほしい。
- II (代謝) さすがに呼吸・光合成反応の知識は、身につけているようだ。実験考察や用語説明の論述問題に関しては、まだまだ練習が必要だ。出題者が何を意図しているのかをいつも意識して演習を重ねよう。
- III (発生) 以前出題した両生類の背腹軸形成に関しても知識は身につけてきている。実験考察問題もボリュームがあったが、ほぼ理解できている答案が多かった。論述問題の正答率は低く、的確な説明が求められる。
- IV (進化) 分類階級名は、本当にいい加減正解してほしい。分子系統樹や遺伝子頻度の計算問題は、何度も考査で出題している定番の問題ばかりである。得点源にするつもりで学習に取り組むようにしよう。

〈世界史探究〉

出題は共通テストを意識した問題、2 次試験を意識した論述問題等多岐にわたり、年代を知らないと言答できない問題などもあったが、平均 49.7 点で、比較的好成績を収めている。世界史は、これからまだ得点を伸ばせる科目です。最後まであきらめず、頑張ってください。必ず、共通テストで 8 割以上の得点が得られるようになります。

教科書や授業プリント・問題集などをしっかりと見直して、歴史の流れを掴むことを第一とし、しかる後、細かな事項も頭に入れていってください。分かってくると同時代の出来事と過去の出来事が繋がり、楽しく学べるようになるはずです。

〈日本史探究〉

1 出題内容

大問は【1】日本の古代史、【2】鎌倉幕府の成立【3】江戸政治外交史【4】韓国併合の過程【5】満州事変【6】近代日本の社会主義運動【7】日中戦争【8】学問弾圧の歴史【9】軍ファシズム運動

2 分析と今後の学習について

全時代を出題範囲にし、とりわけいままで出題できなかった近現代史が中心となった。前近代史では基本単語ではあるが用語を取り違えやすい問題の正答率が半分切っているのが気になった。たとえば「部曲」の正答率が 45%だったのは課題であるし、諸宗寺院法度の正答率が低く(17.5%)寺院法度と取り違えていたのも気になる。教科書(分かりにくい人は用語集)で確認して、文脈の中で用語を把握してほしい。用語や教科書を確認せずに逐語的・機械的に覚えようとしても、用語の定義があいまいなままとなり、かえって遠回りなので時間がかかっても教科書を確認すべきである。

近代史は総理・政党・政策・出来事を対応させて年表的に把握してほしい。正答率をみるとそのあたりがまだ整理されていない傾向がうかがえる。したがって自分で年表を書くなどして覚える努力をして欲しい。特に戦前だと自由党の流れをくむ政党と非自由党の流れをくむ政党は内政・外交政策・人脈が異なり時代ごとに変化も見えるのでそのあたりをよく見極めて整理すべきである。社会運動や女性運動の歴史は学問的には大きなテーマである割にはなかなか覚えられない範囲であるという印象を受けた。したがってよく流れを整理してほしい(弾圧の歴史も時代や、必要な場合は内閣も含めよく把握してほしい)。

〈地理探究〉

平均点 55.8 点

大問 1 は主に自然環境の問題 大陸西岸の中高緯度の多雨地帯の形成理由の説明を問う問題は必須問題であるのと、プレートテクトニクスの問題であった。完全正解者は少なかった。必要とするキーワードが含まれていない場合が多い→正確に覚えていないためか。マークシートで選択問題の場合はその中に解答が入っているのでそれなりに得点がとれるが記述になると中々とれない→多くの生徒は共通テストのみ利用なので仕方ない所もあるが高得点を目指すなら正確な知識を持ってもらいたい。

大問 5 は中東地域の自然名称を答える問題。選択問題では無く記述にしたため、正答率は低かった。決して難しい地名を答えさせる問題ではない。

大問 6 はアフリカ諸国の輸出品目と輸出先から国名を問う問題。なじみのない国を入れたがその国の旧宗主国がわかれば答えられる→歴史的な事柄も知っておく必要がある。これは最近の共通テストの傾向である。

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉 〈ご意見・ご質問をお寄せください〉

『自己実現 2025』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。